

| 自己点検・評価の視点                   | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等  |
|------------------------------|---|
| 学内からの視点                      |   |
| プログラムの履修・修得状況                | 履修登録システム STEP の活用により、受講者の履修・修得状況を把握することができる。令和6年度における本教育プログラムの履修者数は、ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科 237 人、ビジネス情報学部国際ビジネス学科 103 人、看護学部看護学科 64 人であった。修得者数は、ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科 202 人、ビジネス情報学部国際ビジネス学科 88 人、看護学部看護学科 62 人であった。   |
| 学修成果                         | 内部質保証委員会で実施している授業評価アンケート調査のうち「授業内容を理解できたか」の項目を分析することによって、授業内容の学生の理解度を把握することができる。その結果をデータサイエンスセンターと連携し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。  |
| 学生アンケート等を通じた学生の理解度           | 本教育プログラム受講者全員に対して授業評価アンケートを実施しており、学生の理解度を分析している。授業評価アンケートの設問「授業内容を理解できたか」という回答をみると、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した者は、ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科では 58%、国際ビジネス学科では 76%、看護学部看護学科では 77%であった。   |
| 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度     | 内部質保証委員会で実施している授業評価アンケートにより、他の学生への推奨度を推察している。授業評価アンケートの設問「授業は有意義だったか」という回答から推察している。「とてもそう思う」「そう思う」と回答した者は、ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科では 55%、国際ビジネス学科では 79%、看護学部看護学科では 80%であった。   |
| 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況 | 本教育プログラムを構成するビジネス情報学部の科目「情報社会とコンピュータ」と看護学部の科目「情報通信技術の基礎」についてはビジネス情報学部国際ビジネス学科、スポーツ健康マネジメント学科スポーツ健康マネジメントコース／スポーツトレーナーコース、看護学部における1年生の必修科目としている。ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科柔道整復師コース／救急救命士コースにおいては教養選択科目となっているが、今後のカリキュラムの見直しの際には全学必修を予定している。ビジネス情報学部国際ビジネス学科、スポーツ健康マネジメント学科スポーツ健康マネジメントコース／スポーツトレーナーコース、看護学部においては必修科目であり、履修者数、履修率は向上していく。本教育プログラムは 2023 年度から実施しているため 2026 年度には 90%以上の学生が修了できる予定である。 |

| 自己点検・評価の視点                    | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等  |
|-------------------------------|---|
| 学外からの視点                       |   |
| 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価     | <p>本教育プログラムは 2023 年度の入学生より実施を始めたため修了者はいるが、卒業生はまだいない状況である。ビジネス情報学部国際ビジネス学科経営・経済コースには IT アドバンスクラスが設置されている。IT(情報技術)やデータサイエンスに関する知識や技術を身につけた学生がおり社会で活躍している卒業生もいる。2025 年度からはデータサイエンスクラスの開設が予定されている。2023 年度入学生より実施している本教育プログラムを履修した学生や 2025 年度から開設されるデータサイエンスクラスの学生が卒業後に活躍していくことが期待される。</p> |
| 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見 | <p>本学が毎年実施する就職支援のための学内セミナーに参加している企業に対して本教育プログラム内容についての意見を伺っている。本教育プログラムの内容については良好な回答が得られている。例えば「顧客から受注をいただく製造メーカーのため、統計から分析・解析と提案が行える人材を重宝している」「学生のレベルに合わせた講義は大切である」などの意見があった。さらに、産業界からみて大学のデータサイエンス教育に求められる内容について意見を伺い、上武大学データサイエンスセンターにてプログラムの改善に活用している。</p>                        |